

千葉大学総合情報処理センターニュース

平成8年5月発行

千葉大学総合情報処理センター

これからの総合情報処理センターへの期待

附属図書館長・工学部教授 山口正恆

皆様の多大なご指導・鞭撻のもとに4年間のセンター長の任務を終えるにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

私と情報処理センター（当時）の出会いは、今から丁度12年前（昭和59年）の5月でした。当時センター室長として活躍されていましたお二人の先生がご都合で交代されることとなり、故橋本センター長のお勧めにより、その後任の一人として、センターのお手伝いをするところから始まりました。私自身の研究内容や私的な興味は、計算機やネットワークからはほど遠いものであり、センターの内容（ハードウェアからユーザーサービス、あるいは運営、組織等々に至るまで）に関する特別な将来展望を持っていたわけでもなく、その理由は今もってやや不明なことも多いのです。ただ、それ以前の10年ほど研究の都合上計算機の大口ユーザーであったために、ユーザーの意見や動向を集約し見極めるには好都合と思われたためでしょうか。

さて、この12年間に集中的に行われてきた計算機資源の増強や情報処理環境の整備を詳しくご報告するのは別の機会に譲るとしましても、それらは、1) 省令施設としての総合情報処理センターの設置と超大型汎用機の導入、2) キャンパスネットワークとインターネットの整備、3) センターの組織整備、4) 一般情報処理教育に対する主として技術的な支援、5) 超高速演算装置・超大型アプリケーションサーバーの導入等々、と

して大略纏められましょう。乱暴に5項目に纏めてしまいましたが、その実現はセンター教職員ばかりではなく、運営委員、運用専門委員（現在は廃止）、兼務教官、協力員等の諸先生、事務局・関連事務部の皆様、多くのユーザーの精力的で弛まないご努力、ご援助の賜物であると思わざるを得ません。このように、昭和50年代は主として計算機資源を必要とする皆様、これに加えて昭和60年代以降はネットワークの有用性を認識される方々等、ある意味ではこれらの道の専門家や興味を持つ方々のご意見、ご希望を集約したものであり、今後も、より高速・大型機の導入や、より高速・大容量のネットワークの構築等はセンターに期待される責務として止まるところ知らずの感が致します。いずれにせよ、上述のような過程を経て、センターは学内的にも対外的にも、その責務の重さを認知されるに至りつつあることを実感致します。

しかしながら、どのような分野においてもそうであるように、学内外の情報環境やセンターに期待される内容は急速に多様、かつ複雑になり、そのベクトルもあらゆる方向を指向し始めていることも事実です。従来は、例えばネットワークの有用性を見出されなかったり、食わず嫌いで通されてきた方々も、21世紀を迎えるまでにはこれと無関係に孤立した大学での生活が成り立たなくなってしまうだろうことが十分に予想されます。一方、専門家も得てして自らの専門性に深く立ち

入れば立ち入るほど、その限界を予測するようになり、現状の計算機資源やネットワークの整備状況でも可能であるような将来を、心に思い描けなくなることもあるかも知れません（計算機の専門家や技術者よりも、これらに携ったことのない方々のほうが、妄想的と言うことではなく、より大きな夢を語れることもしばしばです）。

この様なことを考えてみますと、「センターはこれから何を目標に掲げたらよいのか」と言うことにもなりましょう。単純に予測することはできませんが、過去からの延長線上にあるような、個人で支えきれないような大規模な計算機資源やネットワークの充実が当然挙げられると思います。これよりも急速に進展する情報化社会に必要なとされる理念の啓蒙とそれを支える学内の的確な情報環境整備の進め方が最重要な課題として浮かび上がってくるような気がします。卑近な例としては、概算要求時には時として悩みの種となる各部局が独自に進めがちな情報環境整備も、将来これらが全学的見地から有効で互いに整合性のとれた計画となりうるか否かという判断等にも積極的

に関与する必要も出てくるでしょう。このようなことを考えますと、センターとしても、無機物的なハードウェアやソフトウェアの構築・整備とは異なり、各々個性のある人間を相手にする場面が多くなり、その活動分野の裾野を広げなければならず、これに携わるセンター教職員の方々には一層のご苦勞をおかけせねばならないのではないかと案じます。

このような課題を遂行するためには、従来のようにセンター独自の努力ばかりではなく、全学を挙げて、教官組織も事務組織も一体となって取り組まねばならないことは申し上げるまでもないことです。皆様の、21世紀を見すえた情報環境整備に対するより深いご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、12年の間、センターのお手伝いをするに当り多大なご尽力・ご協力を賜りましたセンター教職員、諸先生、事務局・関連事務部の皆様には、本来ならば直接伺ってご挨拶申し上げるところではございますが、本紙面をお借りし心より御礼申し上げる次第でございます。

新計算機を使ってみませんか

センターの計算機は今年3月に新しくなりました。主要計算機の名前は cuaps と cuhas です。この他に、 cuios、 cumts という名前の計算機があります。

各計算機の役割

- cuaps 研究・教育用アプリケーションサーバー。
- cuhas 研究用高速演算サーバー。
4 G F L O P S の演算性能を有する。
- cuios DAT、8mm テープ、QIC テープ、
CD-ROM 等の入出力を行なうサーバー。
但し、センター内での利用に限られる。
- cumts VOS3 用の磁気テープサーバー

これらを利用するにはセンターに利用申請書を提出し利用者IDを取得しなければなりません。

ファイルのバックアップ

ホームディレクトリ上のファイルのバックアップは各自で行なって下さい。

パスワードと利用者名

cuaps, cuhas, cuios を初めて利用する際には、パスワードを変更して下さい。また、GCOS-field は登録時に Chiba Univ. と設定されていますので、利用者自身の氏名に変更して下さい。パス

ワードや GCOS-field の変更は cuaps でのみ受け付けられ、cuhas と cuios では cuaps で変更されたものが使われます。具体的には、cuaps にログインして次のように入力します。

パスワードの変更の場合、

```
% passwd
```

GCOS-field の変更の場合、

```
% chfn
```

どちらも、メニューが表示されますので、それに答えて下さい。なお、cuhas と cuios の設定値変更は両者とも cuaps での変更の翌日になります。

cuaps と cuhas 上の主なソフトウェア

・ cuaps

FORTRAN77, Fortran90
ANSI C, C++, PASCAL
IMSL, Cray libSci
SAS, SPSS
AVS, Maple
Mopac, Gaussian
Mosaic
mnews, ghostview

・ cuhas

FORTRAN77, Fortran90
ANSI C, C++
IMSL, MSL2, MATRIX/HAP, GKS
Mopac, Gaussian

会話的ジョブ利用上の制限

cuaps、cuhas、cuios には各々利用上の制限があります。会話的ジョブ (TSS) での主な制限を挙げておきます。NQSでの制限値については次回に掲載します。

項目	cuaps	cuhas	cuios
CPU 時間	15 分	30 分	制限無し
仮想メモリーサイズ	48MB	32/64MB*	制限無し
ファイルサイズ	10MB	100MB	制限無し
短期ディレクトリ+	/short	/short	/cuios
容量+	2GB	2GB	2GB
短期ファイル保存期間	7 日	7 日	7 日

*) 32/64MB : デフォルトで 32MB、limit コマンドにより 64MB まで拡張可能。

+) 短期ファイル格納用ディレクトリ名とその容量。

短期ファイルの作成について

プログラムを実行するときに一時的に用いる短期ファイルは以下のように作成して下さい。

cuaps、cuhas では

```
/short/ 利用者 I D / ファイル名
```

cuios では

```
/cuios/ 利用者 I D / ファイル名
```

利用説明会的时候には /tmp 上としましたが、システムと区別するように /short と /cuios を割り当てましたので、こちらを利用して下さい。

総合情報処理センター講習会

— 可視化ツール AVS の利用法 —

講師 : 浅井英樹 (キヤノンスーパーコンピューティング)
場所 : 総合情報処理センター電算実習室 1
日時 : 6 月 18 日 (火) 14:00~16:00
対象 : センター利用者番号をお持ちの方
内容 : AVS の概要と使用方法

第 2 回一般情報処理教育システム講習会

— 電子メールの高度な使い方 : mh-e —

講師 : 堀越崇 (学生相談員 : 工学部 4 年)
場所 : 総合校舎 A 棟 4 階情報処理演習室
日時 : 6 月 6 日 (木) 16:10~
対象 : UNIX で電子メールを自由に操りたい人
内容 : mh-e の基本的な使い方、実習

一般情報処理教育システム 学生相談員とは

総合校舎A棟にある一般情報処理教育システムでは、総合情報処理センターの監督の元に学生で構成された相談員が活躍しています。総合校舎A棟3階情報処理演習室の一番前の席で、現在約4500人以上の実利用者から出されるさまざまな質問に答えたり、またあるときはシステムの異常を発見したりしています。初心者からエキスパートまでレベルに応じた講習会も定期的に行われます。活動内容は

URL <http://www.students.chiba-u.ac.jp/>
を通じて見るすることができます。今年度のメンバーは次の通りです。

殿岡英顕	自然科学研究科物質科学専攻 D1
山口貴之	自然科学研究科生物資源科学専攻 M1
松崎考視	理学研究科物理学専攻 M2
宮崎清隆	園芸学研究科生物生産科学専攻 M1
荒井誠	教育学研究科英語教育専攻 M1
蟹池陽一	文学部社会文化科学研究科 D2
堀越崇	工学部電気電子工学科 4年
小松垂矢子	工学部情報工学科 4年
筒井正直	工学部情報工学科 4年
細野英朋	工学部工業意匠学科 3年
山田忍	工学部電気電子工学科 3年
成田邦彰	工学部電気電子工学科 3年
栗山幸樹	工学部電気電子工学科 3年

玉井大介	工学部機能材料工学科 3年
安江伸之	工学部画像工学科 3年
加藤知光	工学部電気電子工学科 2年
古林清彦	工学部機械工学科 2年
横田裕思	工学部機能材料工学科 2年
辻中琢哉	工学部情報工学科 2年
川崎有亮	工学部情報工学科 2年
笹木一義	文学部行動科学科 3年
早川浩司	文学部行動科学科 3年
片岡健司	法経学部法学科 2年
水野裕之	法経学部法学科 2年
渡三佳	医学部医学科 2年

編集後記

皆さんいかがおすごしでしょうか。さて編集担当になって第2号となりました。まだ4月号が配布されてまだ間もないので反響がないのも当然ですが、皆さんの御意見を心待ちにしています。センターにいと当たり前と思って説明が行き届かなかったりするようなことなど多いのではないかと少し危惧しています。新システムの利用法の質問や新しいコンピュータ技術で解説してほしいことなどありましたら、どんどん広報編集部門までお寄せ下さい。励ましのお便りも素敵ですね。

センターニュースはポストスクリプト形式で
URL <http://www.ipc.chiba-u.ac.jp/>
を通じて24時間オンラインから見られるようになっています。
(山下)

[予定]

以下の日時はセンター内利用ができません。

5/31	月末処理日(全日)
6/17	定期点検日(9:00~13:00)
6/28	月末処理日(全日)

[広報編集部門]

千葉大学総合情報処理センター
〒263 千葉市稲毛区弥生町1-33
TEL 043-290-3536
FAX 043-290-3544
E-mail editor@yuri.ipc.chiba-u.ac.jp